

美原里山通信 No. 163 (2025年11月号)

2025.11.1

11月の定例作業は、11月8日（土）9時からグリーントリム公園に集合

草木が繁茂しています。今年秋期の里山整備作業のかき入れ時です。

雨天の場合は、11/15（土）に延期。

11月の平日作業は、11月18日（火）9時からグリーントリム公園に集合

平日時間取れれば、少人数作業の雰囲気を楽しんでください。

11月1日（土）“はむら市民と産業のまつり 2025” 富士見公園環境政策課のテント

子どもらにのこぎり体験教室 参加協力お願いします。

11月16日（日）“美原フェス 2025” グリーントリム公園にて

薪割体験、のこぎり体験（コースター作り）、モルックなどの案が現在検討中です。

1. 10月の定例作業日は雨天延期の後、斜面や間道の草刈りなど

定例作業日 10/11（土）は霧雨でしたので、翌週 10/18（土）に延期になりました。この日は各所で行事があり、参加者は6名と少數になりました。新入会員長島秀雄さん参加。空は晴れ、空気は涼しく、日射しも気にならない陽気でした。少人数なので第1広場の道路沿い崖線斜面を主に草刈りをしました。また、斜面横断の間道は伸びた草木が歩行の邪魔をしているのを刈り取りました。入口広場のもみじなどの剪定や里山一帯のゴミ拾いもしました。



草刈り・剪定



斜面間道整備

2. 10月の平日作業は、支障木伐採、薪材保管など

10/21（火）平日作業は曇天、暑くも寒くもない気温です。参加者5名。細目の支障木3本を伐採しました。来る11/1（土）の“はむら市民と産業のまつり 2025”にてのこぎり体験教室をもつことで参加するため、子どもでも切断可能な小径のヒノキを選びました。伐採に際して地上1mくらいの位置でチェーンソーの刃を入れました。地上に約1mの高さの切り株を残すのは、林の中で子どもが躊躇ないように、また切断伐木も易しいし、必要ならいつでも低く切断できるからです。

太い幹の部分は薪材として使います。また、これまで保管されていた薪材も薪の長さ約40cmに揃えて切断しました。薪割りの準備です。



過密集のヒノキ林



チェーンソーで切断



伐倒



伐木を切断



斜面下へ運搬



幹を薪寸法に切斷



中心が腐った切り株



薪割り前

皮剥ぎ
11/1 市民と産業まつりのこぎり体験用
コースター材料

投稿

地域社会に寒風来る

「勝手なことしやがって」と美原里山保存会の作業を見て呟く人がいたとか、作業休憩時間に出た話。特殊な人かもしれないが、驚かされる。以前は聞いたことのない言葉だ。私たちの活動は羽村市との協働事業なので“勝手な”ではない。誤解か偏見だ。だが、何かが変わってきてている。

1) 地域共同体の衰退

町内会会員数が減少し続けている。行事への参加が少なくなっている。会員の意識も仲間との連帯から個人主義に変化している。町内会だけでもないし、東京都、そして全国的な傾向のようだ。町内会は地域共同体の総本山であり、地域諸団体はその風下にいる。

2) その原因は

原因と思われる項目を列挙してみると、①高齢化で従来の活動層が動けない、②人口減少、転入転出の移住者、忙しい共働きなどで入会者が少なく世代交代が進まない、③ネット社会（リモートワーク、人間関係のないSNS情報交換など）やコロナ後遺症（引き籠り）、経済格差拡大&固定化の不満などで醸成された個人主義（無関心、“他者は負担”と感じる）、④活動の形骸化（重要度が低く、前年踏襲し、義務化した活動が多い）など。

（注：個人の責任を大事にする個人主義もある。個人を尊重して集団/組織に積極的に関わる個人主義もある。個人主義＝悪ではない。）

3) 対策は

以上の傾向は全国的なので、政治や行政の課題でもある。総務省では地方自治法の改正をし、認可地縁団体の条件緩和など対策を出しているようだ。自治体も考えてほしい。

地域活動団体としてできることは、高齢者の慰留、入会勧誘、運営の世代交代、活発な議論と交流、活動の見直し、組織再編検討など。

4) 美原里山保存会の行く道

地域の人々の絆が切れて孤立孤独や自分中心の風潮が押し寄せようとも、人間同士の協調を良しとする人間の本能は変わらない。人は自分が幸せになるには他人も幸せにならないと果たせないのが人間社会だ。WIN-WINの関係ができる社会を作る道を進もう。美原里山保存会の道はその道ではないだろうか。